

令和3年度 佐世保市学力調査及び長崎県学力調査【小学校】

<佐世保市の結果・改善策等について>

I 佐世保市学力調査

1 調査対象・人数

(国語・算数) 小学校及び義務教育学校前期課程 第4学年・・・2, 170名

2 教科別領域別結果

教科	国語							算数				
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方	我が国の言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	全体	数と計算	図形	測定	データの活用	全体
市平均正答率	71.2	48.6	82.5	74.9	49.0	66.1	66.7	66.9	73.0	62.9	53.7	65.6
全国平均正答率	75.0	49.7	81.7	74.8	50.8	69.2	69.3	73.0	75.9	67.6	56.7	70.9
全国比達成率%	94.9	97.8	100.9	100.1	96.4	95.6	96.4	91.7	96.2	93.1	94.7	92.6

3 課題と分析及び改善策 (○: 成果 ◎: 改善傾向 ▲: 課題 ■: 継続課題)

教科	課題 ※【問題番号】	平均正答率		改善策(例)
		市	国	
国語	○ 漢字のへんやつくりを理解している。 ○ 漢字を正しく読む			
	■ 第3学年に配当された漢字を正しく書いている。 「予想」という漢字を正しく書く。【2(2)①】	57.5	68.3	・ 漢字の用例や意味について確実に理解させる。反復練習では、「新しい漢字を覚える」「身につけているか確認する」など、目的をもって取り組ませる。また、学習した漢字は必ず使わせることで、学年配当漢字を確実に身に付けさせる。
	■ 「庭」という漢字を正しく書く。【2(2)②】	61.0	76.1	
	■ 主語と述語について理解している。【3(1)】	64.8	69.9	・ 主語と述語の関係が係り受けの関係にあること、述語は文の結論を表す役割を担っており、主語はその主体になることを確実に理解させる。そのうえで、低学年から主語と述語の関係について指導を積み上げていく。
	▲ 叙述を基に文章の内容を捉えている。【5(1)】	72.1	80.5	・ 「問われていることは何か」を確実に捉えさせ、キーワードとなる言葉や本文の叙述に線を引いたり考えを書いたりさせる。叙述を根拠として自分の考えを説明する場面を意図的に設定する。
	▲ 自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書く。【7】 ※数値は4項目の平均	56.9	59.8	・ 「書くこと」の学習や授業のまとめにおいて、字数や段落構成について条件を設定したうえで書く練習を行い、求められている事柄に応じて文章を書く力を付ける。
算数	○ 小数のしくみを理解している。 ◎ 小数の相対的な大きさについて理解している。 ○ 同分母分数の加法計算ができる。			
	■ 数直線上に示された分数を読み取ることができる。【3(1)】	62.6	72.2	・ 分数の意味を具体物を使って実感をもって理解させる。 ・ 計算の際には、テープ図等の図を活用して、何を「1」と捉えているのかを意識させる。
	■ 2けた×2けた=4けたの計算ができる。【4(4)】	53.1	68.3	・ 筆算の仕方の意味を理解させ、計算技能の習熟を図るとともに、計算結果を見積もり、計算の確かめに役立てさせる。 ・ 筆算の練習の際には、虫食い算など逆思考で考えるような問題に挑戦させる。
	■ 小数の減法計算ができる。【4(6)】	37.4	55.3	・ 小数の計算は、数直線上での小数・整数の大小や順序、0.1の何個分の考え方で整数と同じ見方をするなどの小数の仕組みと関連付けながら、整数と同じ原理、手順であることを理解させる。
	▲ □を使って乗法の式に表すことができる。【8(2)】	46.9	66.1	・ 問題場面の数量関係を、図等で整理する活動を低学年から取入れ、全体と部分や、基準量・比較量・割合(倍)を視覚的に捉えることができるようにする。 ・ 問題→図→式だけでなく、図→式・問題、式→図・問題と双方向での理解を図る。
	▲ 単位の前にkがつくともとの単位の1000倍になることを説明している。【11(2)】	45.9	56.2	・ 単位の学習の際は、具体物を活用して、量感覚を養うとともに、複数の単位について共通することなどを考察する時間を設定する。

II 長崎県学力調査

1 調査対象・人数

(国語・算数) 小学校及び義務教育学校前期課程 第5学年・・・2, 249名

2 教科別領域別結果

教科	国 語					算 数					
	知識及び技能	話す聞く	書く	読む	全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	全体
市平均正答率	61.4	51.4	47.7	59.2	56.8	65.2	44.0		76.4	64.6	62.1
県平均正答率	66.0	53.9	47.8	62.5	60.6	68.8	47.7		72.7	66.0	64.9
県比達成率%	93.0	95.4	99.8	94.7	93.7	94.8	92.2		105.1	97.9	95.7

3 課題と改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課 題 ※【問題番号】	平均正答率		改 善 策 (例)	
		市	県		
			自校		
国 語	○ 文を正しく書き直す。				
	■ 「みゃく」をローマ字で正しく書く。 【1五】	51.0	56.6	・ローマ字の読み方・書き方の原理原則について確実に理解させ、練習を行う。教室でのローマ字表記を意図的に増やすことでローマ字に触れる機会を生み出したり、定期的に復習プリント等を活用したりすることで、確かな定着を図る。	
	■ 「かるく」という漢字を正しく書く。 【2二(1)ア】	59.7	63.8	※佐世保市学力調査参照	
	■ 文章中における主語と述語の関係を捉える。	文章中の主語を選択する。 【3-(1)①】	37.9	46.0	※佐世保市学力調査参照
		文章中の述語を選択する。 【3-(1)②】	41.6	48.4	
	▲ 文章のよいところを見つける。 【2三】	52.6	56.1	・「書くこと」において、目的意識や相手意識のある言語活動を設定する。その視点を基に、文章に対する感想や意見を伝え合う場面を設定する。	
	▲ 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて想像する。 【3二(2)】	53.0	56.7	・「読むこと」において、「場面の移り変わりと結び付けて」考えさせる発問を行う。単元の学びの中で、想像したことの根拠を本文の叙述を基に説明させる場面を意図的に設定する。	
算 数	○ 問題場面と関連付けて式の意味を読み取ることができる。 ○ 折れ線グラフから数値を読み取ることができる。 ◎ 6.7+0.3×4の正しい計算の順序が分かる。				
	■ 平行な二直線の性質を用いて作図する方法を理解している。 【2(1)】	25.7	33.8	・作図の方法を考える際には、学習した図形等の定義、性質を振り返り、どの性質を活用すれば作図ができるのかを考える活動を設定する。 ・性質を活用していることを実感することで、その図形等の性質の理解を深める。	
	▲ ひし形の性質を理解している。 【2(3)】	32.4	32.6	・図形の学習において、図形の構成要素に着目させ、分かっていること(辺の長さや角度、等しい辺、等しい角等)を書き込みさせるようにする。 ・新しい図形の学習では、既習図形との共通点、相違点を整理する活動を取り入れる。	
	■ 1mを5等分した8つ分のリボンの長さを分数で表す。 【3(1)ウ】	47.0	54.6	※佐世保市学力調査参照 ・分数の概念の学習だけでなく、分数の計算の学習の際も、分割分数、量分数の違いを意識させる。	
	▲ 数を構成する単位に着目して小数÷整数計算の仕方を記述することができる。 【3(2)①】	37.5	37.1	※佐世保市学力調査参照 ・計算の仕方の学習において、手順だけでなくその意味も理解させるとともに、数値を変えた問題で説明する活動を取り入れる。	
	■ 折れ線グラフと棒グラフを関連付けて、ごみの量と人口の変化の関係について判断することができる。 【4(2)】	33.7	34.6	・グラフの学習後、生活の中から様々なグラフ(組み合わせたグラフ等)を探す活動や、それらのグラフについて縦軸等の基本的な読み取り方の確認したり、分かること、気付きを話し合ったりする活動を取り入れる。	

Ⅲ 考察

【国語】

- 短文記述式の問題については、全国正答率との差が縮まるなど一定の成果がでている。しかし、市学力調査、大問番号7「読むこと」領域4つの設問で無解答率が23.4%となり、正答率は全国平均を下回っている。これは、「時間不足」や「書く力が不足」している児童が一定数存在していると考えられる。授業の中で、計画的に単元で付けたい力に迫る「書く活動」を位置づけることで、書くことに慣れさせたい。また、必要に応じて書くための「型」を提示したり、引用することや段落構成等について条件を追加したりして、段階的に書く力を高めさせる。
- 県学力調査においては、ほとんどの設問で正答率が県平均を下回っている。したがって、「登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉える」「場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する」など、「単元で身に付けさせたい力」を授業者が明確に持って授業を行うことが大切である。そのうえで、その力を単元を通した学びの「どの場面」で「どのように」定着させるのか、ゴールを見据えた意図的・計画的な単元構想を行う。それを具現化した単元のめあてを児童と設定し、児童に学びの必然性や意義を感じさせることで主体性を持たせ、確実な力の定着につなげていく。

【算数】

- 小数、分数について、小数の仕組みの理解や、1より大きい分数については改善傾向が見られる。しかし、小数の減法については、正答率が低だけでなく無解答率が7.4%と継続して課題であり、分数の意味理解も県や国の平均と比べると大きく下回っている状況である。また、基本的な知識・技能の問題、例えば、かけ算の計算問題や図形の性質等の定着にも課題がある。低学年での概念の素地において、操作的活動による実感を伴う理解や、学習内容の確実な定着が求められる。計算等の反復練習とともに、「なぜそうなるのか」意味理解を伴った理解と、学んだことを活用しながら定着を図っていくことが大切である。授業づくりにおいては、身に付けたい力を明確にするとともに、次の3点を意識したい。
 - ①課題解決に向けて、働かせたい見方・考え方、つまり解決するためにどこに着目すべきなのか、活用できる既習内容は何か、見通しをもたせること。
 - ②児童自身が、どこに着目すれば解決できたのか、どの既習内容を活用すれば解決できたのかを実感すること。
 - ③そのために、授業の終盤で本時の振り返りを設定すること。既習を生かして問題を解決する経験を積み重ね、分からない問題にも挑戦する姿勢を育てたい。
- 記述の問題や複数の情報から適切に読み取り筋道立てて考える問題において、正答率が低く、無解答率が高い。ペアやグループでの対話活動を設定する際は、本時の目標を踏まえ、対話の目的は何か、何を話させたいのか（児童に使わせたい言葉・キーワード）を明確にしておくことで、適切な助言、発問ができる。単元計画において、単元終盤に、教科書の巻末のチャレンジ問題に挑戦させ、複数の情報が含まれる問題文から数量関係を図等に整理し、解決する活動を設定する。また、最後の問題で無解答率が高くなる傾向があり、問題を時間内に解くことができていない児童が多いことが予想される。自力解決やプリント学習等において、時間を設定して取り組ませるようにする。